

第35回 企画展

# バリアフリーと ユニバーサルデザイン

～みんなが暮らしやすいまちへ～

## はじめに

最近では、さまざまな場面で「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」といった言葉を聞く機会が増えてきていますが、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」とはいったいどんなものなのでしょうか。

今回の企画展では、「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」について取り上げます。

今までは『モノ』に『ヒト』が合わせていましたが、これからは多様な人々に合わせた『モノ』が求められる時代になってきました。その中でみんなが暮らしやすいまちをつくっていくにはどうすればよいのか、今回の展示を見ながら考えてみましょう。

# 「バリアフリー」とは

バリアフリーとは障害者や高齢者などが社会生活に参加するの  
に妨げになるバリア（障壁）を取り除くことを言います。

バリアと呼ばれているものについては、次の4種類のものがあり  
ます。

## 1. 物理的バリア

移動する際に建物、道路、交通機関などに物理的に存在するバ  
リアのことです。

## 2. 制度的バリア

障害を理由に資格や免許などが取得できない制度が存在して  
いることです。

## 3. 文化・情報面のバリア

読む、聞く、話す、理解するといったことに問題があり、情報  
のやり取りがしにくい状態にあることです。

## 4. 意識上のバリア

心のバリアとも呼ばれ、障害のある人に対する偏見や  
無理解・無関心であることをいい、あらゆるバリアの元となっ  
ています。

## 「ユニバーサルデザイン」とは

バリアフリーは障害のある人のためにバリアを取り除くという  
考え方ですが、ユニバーサルデザインとは、最初からバリアを作ら  
ないようにデザインするという考え方です。ここでは、障害のあ  
る人だけを対象とするのではなく、すべての人を対象に考えられ  
ています。

### ユニバーサルデザインの7つの原則

1. どんな人でも公平に使えること
2. 使う上で自由度が高いこと
3. 使い方が簡単ですぐに分かること
4. 必要な情報がすぐに分かること
5. うっかりミスが危険につながらないこと
6. 身体への負担がかかりづらいこと（弱い力でも使えること）
7. 接近や利用するための十分な大きさと空間を確保すること

## 「ピクトグラム」

ピクトグラムとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つです。地と図に明度差のある2色を用いて、表したい意味を単純な図として表現する技法が用いられます。主に駅や空港など公共空間で使用され、文字で表現する代わりに、視覚的な図で表現することで、言葉に頼らずに内容を直感的に伝える目的で使用されてきました。

### 身近にあるピクトグラムの例



しょうがい ひと つか せつび  
障害のある人が使える設備



ひじょうぐち  
非常口

# 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の<sup>ちが</sup>違い

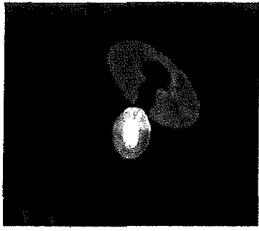
現在、バリアフリーという言葉はさまざまな場面で使われています。しかし、「あらゆるバリアをなくす」というように広い視野に立って使われても、「障害者や高齢者など特定の人に対する特別な対策としてバリアを取り除く」という発想になってしまいがちです。

例えば、エレベーターをつけることでバリアフリーになるとしても、もう一歩考えることが重要であり、エレベーター・エスカレーター・階段をそれぞれ平等・公平に利用できるようにすることがユニバーサルデザインといえるのです。また、「障害者用」「高齢者用」と名づけられた商品や道具などは、バリアフリーといえるかもしれませんが、かえって使いにくい場合もあります。年齢や障害の有無などにかかわらず、だれもがさりげなく使えることもユニバーサルデザインの重要な要素といえます。

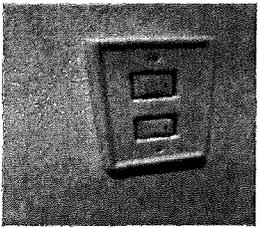
	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
かんが かん 考え方	バリアを取り除く	バリアをつくらない
たいしやうしや 対象者	高齢者・障害者など 人を分けて考える	できるだけ多くの人 人を分けて考えない
せいび どあ 整備の度合い	健康なおとなと同じように	誰もが使えるように
きやうつうてん 共通点	暮らしやすい社会をつくらうという考え方	

# 進化するユニバーサルデザイン (1)

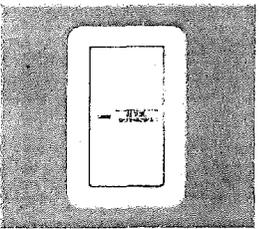
～「モノ」が「ヒト」に合わせる時代へ～



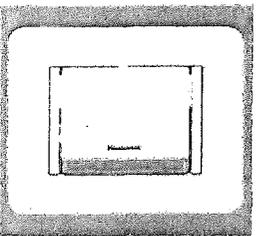
1. 裸電球の時代には、直接電球の根元のスイッチを操作することで、明かりを点けたり消したりしました。スイッチまで手の届かない人は、不便な思いをして操作していました。



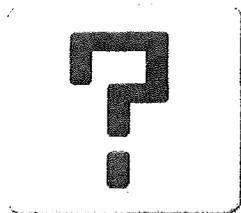
2. 次に、壁のスイッチの登場により、わざわざ電球のもとまで行かなくても、操作できるようになりました。ただ、指先で複雑な動作が行えない人にとっては、まだまだ不便が残るものでした。



3. さらに、押しボタンの大きなスイッチの登場により、指先が不自由な人・家事で両手がふさがっている人も、細かい操作を必要とせずに操作が可能となりました。それでも、車いすを利用している人にとって、スイッチのもとまで行かなければならない不便は残りました。



4. そこで、センサースイッチの登場により、たとえば車いすを利用している人もスイッチのそばまで行かなくても、センサーに感知されるだけで明かりを点けることができます。



5. 裸電球しかない時代には、壁のスイッチ式の照明器具はユニバーサルデザインであったでしょうし、現在ユニバーサルデザインとして認識されている大きなボタン式のスイッチの普及が進めば、将来にはスイッチの標準になるでしょう。

ユニバーサルデザインであるかどうかは、より多くの利用者がより便利だと思えるかどうかで決まります。

# 進化するユニバーサルデザイン（2）

～優先席について考える～

バリアフリーとして考えられたものが、後のユニバーサルデザインとなることもあります。電車のシルバーシートは当初はバリアフリーとして考えられていました。しかし、座りたいのは障害のある人や高齢者だけでなく、子どもや妊婦の人も同じでした。そこで、座席を必要としているすべての人を対象にした優先席というユニバーサルデザインに生まれ変わりました。

さらに、鉄道会社によっては全席優先席（事実上の優先席廃止）という取り組みを行っている会社もあります。どこの座席の人も席を必要としている人がいれば率先して席を譲ろう、という心のバリアフリーが行き渡った結果、優先席がもはやユニバーサルデザインという特別なものではなく、当たり前となったことを示す一例といえます。



# しんか 進化するユニバーサルデザイン (3)

りようしゃ  
～利用者にあわせて～

ユニバーサルデザインはできる限り多くの人が使ってもらえるよう考えられていますが、実際のところ、障害のある全ての人<sup>かき おお ひと つか</sup>が使えるユニバーサルデザイン<sup>かんが</sup>はありません。たとえば、すべての車いす利用者<sup>くるま りようしゃ</sup>がノンステップバスの登場<sup>とうじょう</sup>でバスを利用<sup>りよう</sup>できるようになったかという、そうではありません。利用<sup>りよう</sup>が難しい人<sup>むずか ひと</sup>へは介護用のタクシー<sup>かいごよう</sup>などを利用<sup>りよう</sup>してもらうことも必要<sup>ひつよう</sup>です。

このように、ユニバーサルデザインを利用できない人<sup>ひと</sup>にはバリアフリーで補<sup>おぎな</sup>っていくこととなります。バリアフリーとユニバーサルデザイン<sup>りようほう りよう</sup>両方<sup>りよう</sup>を利用しながら、バリアのない社会<sup>しゃかい</sup>をめざしていくことになるでしょう。



# 三重県が進めるユニバーサルデザインのまちづくり

(三重県作成「三重県ユニバーサルデザインのまちづくり」より抜粋)

## これまでの三重県の取り組み

三重県では、平成9年(1997年)11月に新しい総合計画「三重のくにつくり宣言」を制定しましたが、その中で、総合行政で取り組む8つの重要課題の1つとして「バリアフリー社会づくり」が提唱されました。

そして、平成11年(1999年)4月には、「三重県バリアフリーのまちづくり推進条例」が施行され、本格的な取り組みが始まりました。

また、平成19年4月には、バリアフリーに向けた取り組みも進めながら、ユニバーサルデザインの推進に取り組むため、条例を「三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例」に改正しました。

## ユニバーサルデザインのまちづくりへ

「三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例」の理念は、「すべての人々の社会参加の機会を確保し、自由に行動し、安全で快適に生活できるユニバーサルデザインのまちづくり」です。

そして、この理念のもと、これからも条例の整備基準による公共的施設のバリアフリー化、アドバイザー養成講座や県民への普及啓発など、ハード・ソフト両面からの取り組みを行なっていきます。

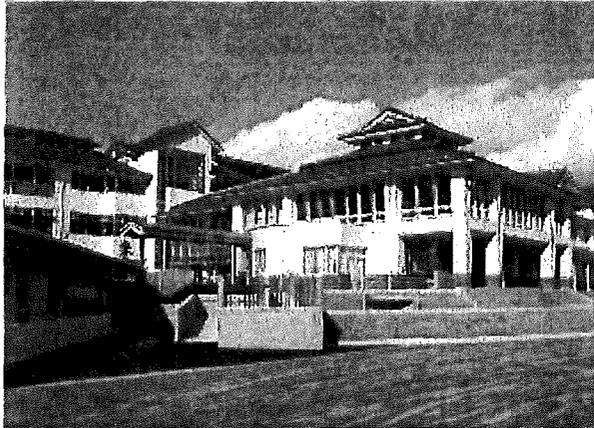
特に「まちづくり」を考えた場合、障がい者や高齢者ばかりではなく、妊産婦・子ども・外国人などを含めて、すべての人々が主役であるのは当然のことです。したがって、ユニバーサルデザインという言葉が浸透しつつある今、これまでの実績を発展させ、さらに進化(深化)させていくものとして、「ユニバーサルデザインのまちづくり」を明確に推進していくこととしました。

## 三重県がめざすユニバーサルデザインのまちづくり

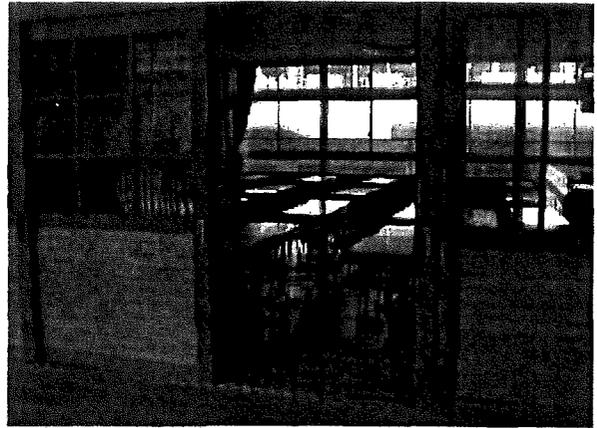
三重県では、障がいの有無・年齢・性別等にかかわらず、すべての県民が社会のあらゆる分野の活動に参加でき、安全かつ快適な生活を営むことができるあらゆる配慮されたユニバーサルデザインのまちづくりをめざします。

# まちで見かけたユニバーサルデザイン（1）

ながしまちゅうがっこう  
長島中学校



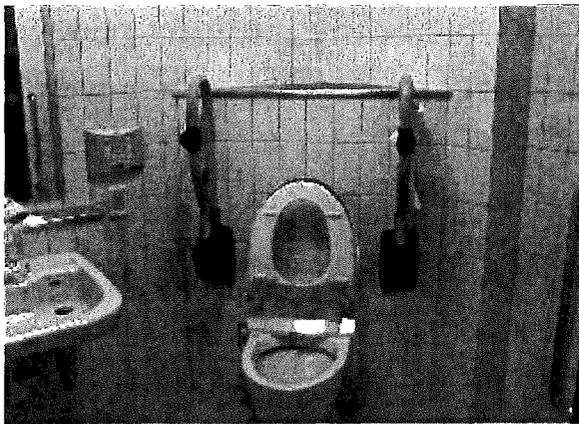
こうしゃぜんけい  
校舎全景



きょうしついりぐち  
教室入口

きょうしつ でいりぐち ひろ  
教室の出入口は広くてフラット（<sup>たい</sup>平らに）

になっています。



トイレ

りょうがわ かどうしき て  
両側に可動式の手すりがついたトイレ

です。



エレベーター

の お かんつうしき  
乗り降りのしやすい※貫通式のエレベーター

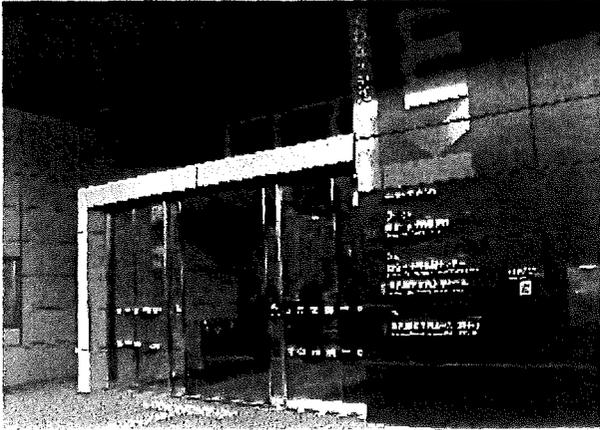
一で<sup>そうさ</sup>操作しやすいボタンがついています。

※貫通式のエレベーター・・・乗り込んだ出入口と反対側にもう一つの出入口のあるエレベーターで、<sup>くるま</sup>車いすで<sup>りよう</sup>利用するとき<sup>てんかい</sup>に転回などをせずに<sup>お</sup>降りることができます。

しゅってん みえけん みえけん  
（出典：三重県ホームページ 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり より）

# まちで見かけたユニバーサルデザイン (2)

くわなしりつちゅうおうとしょかん  
 くわなメディアライヴ・桑名市立中央図書館



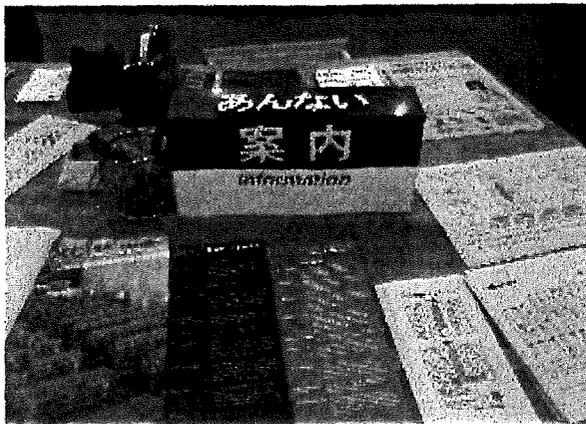
しせつりぐち  
 施設入口



たきのう  
 多機能トイレ

かい たきのう  
 1階の多機能トイレには※オストメイト

せつび  
 設備もあります。



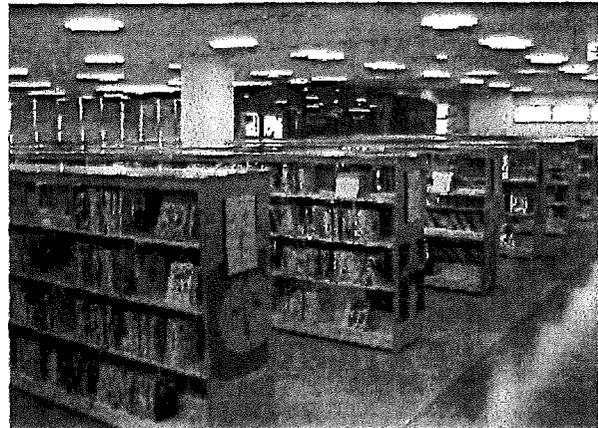
としょかん  
 図書館カウンター

くわなしりつちゅうおうとしょかん  
 桑名市市立中央図書館のカウンターです。

ひらがな・漢字・英語それぞれで表示が

されています。

※オストメイト・・・病気や事故で消化管等が損なわれたため、腹部等に排泄のための開口部を造設した人のこと。



こ ようしょか  
 子ども用書架

こ よう しょか  
 子ども用の書架です。

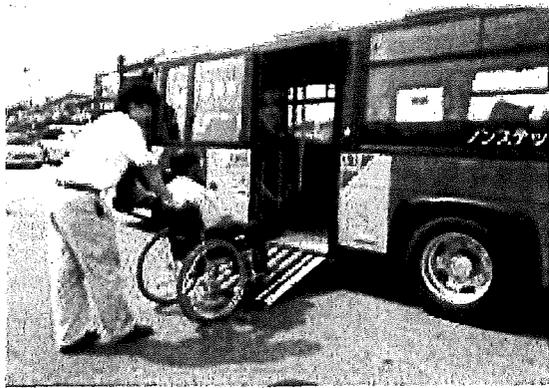
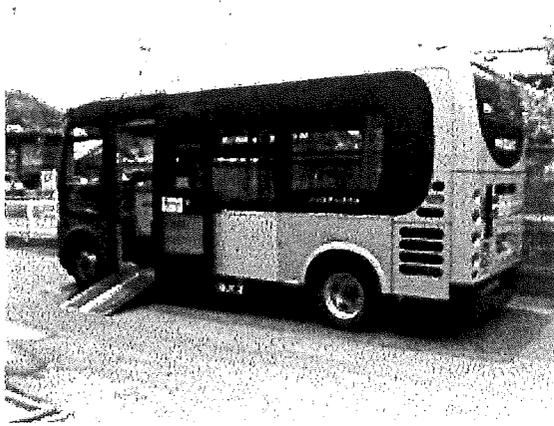
せ ひく くらん  
 背が低く空間もゆったりしており、温かい

ふんいき  
 雰囲気があります。

しゅってん みえけん みえけん  
 (出典：三重県ホームページ 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり より)

## まちで見かけたユニバーサルデザイン（3）

### くわなし 桑名市コミュニティバス「Kバス」

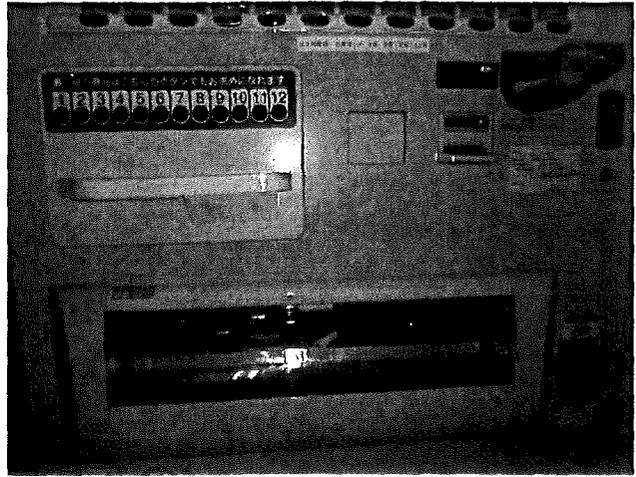
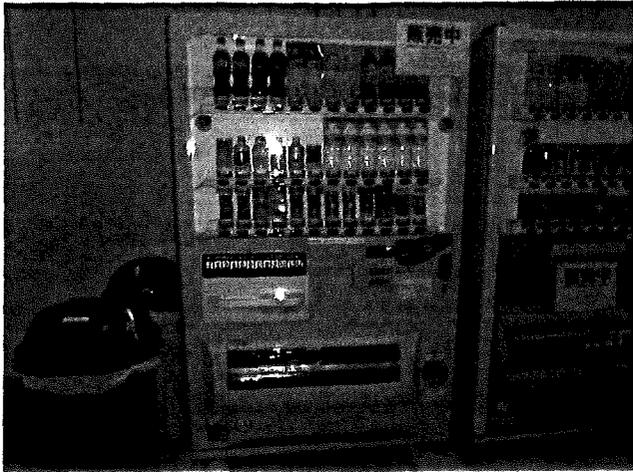


くわなし 桑名市コミュニティバス「Kバス」ではすべてのバスにおいて、くるま 車いす利用の人がスロー  
プを利用して乗車することができます。また、一部のルートを除いて、バスの車高調整が  
かのう 可能となっていて、だんさ 段差が少なくのりお 乗り降りがしやすくなっています。

しゅってん くわなし 桑名市ホームページ くわなし 桑名市コミュニティバス「Kバス」より

# まちで見かけたユニバーサルデザイン（４）

じどうはんばいき  
自動販売機



コイン投入口や商品選択ボタンが中段部分に集まっているために楽に操作ができて、

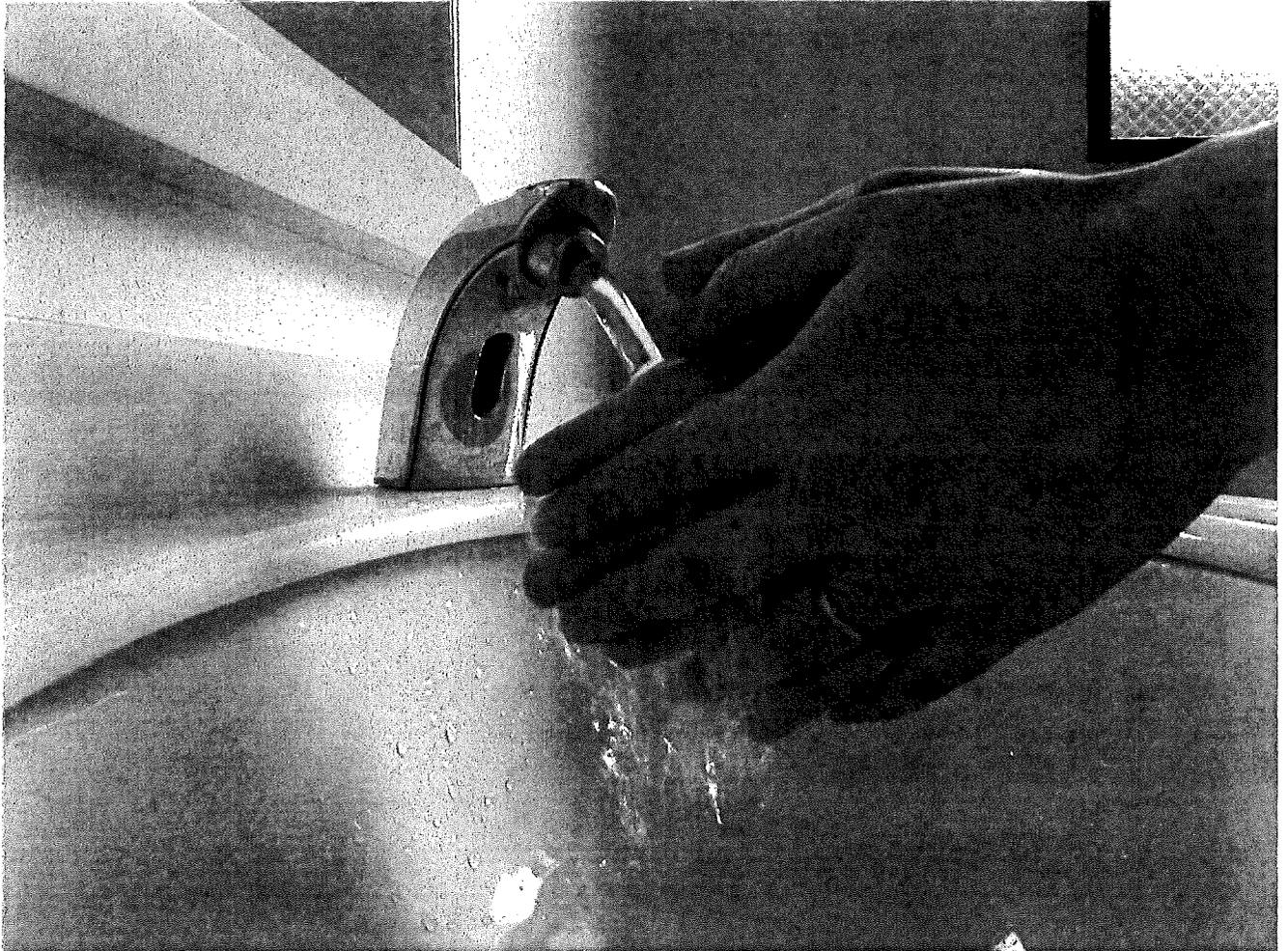
身長しんちょうの低い子どもひくこや車いすくるまの人ひとでも利用りようが可能ですかのう。



コイン投入口とうにゅうぐちに受け皿うざらがついており、複数ふくすうのコインをまとめて楽に投入らくとうにゅうできます。

## まちで見かけたユニバーサルデザイン（5）

せん めん じょ  
洗面所



センサー式で、手を近づけるだけで自動的に水が出るようになっていて、遠ざけると自動的に水が止まります。

かていない  
家庭内のバリアフリー



つうろ <sup>たんさ</sup> 通路での段差をなくすことにより、くるま <sup>いどう</sup> 車いすでの移動がスムーズにできるよ  
うになり、つまづいてけが <sup>ふせ</sup> をするのを防いでいます。

## おわりに

いかがでしたか。「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」について紹介してきました。

このような事例が、自分たちの身近にたくさんあり、使っていることに気づいてもらえたと思います。

この展示を通して、みんなが暮らしやすいまちづくりをするには、どうすればよいかを考える一つのきっかけとしていただければ幸いです。